

## 株式会社伊豆の里の社会的責任(CSR)について

一般的に「企業の社会的責任」とは、社会の一員として、社会、利用者、株主、職員、取引先、消費者、地域社会といった利害関係者に対しての責任です。当法人の社会的責任は、下記表のとおり基本的 CSR、リスク CSR、将来戦略的 CSR の 3 つに大別します。また、社会的責任は、社会貢献を超えて地域と良好な関係を構築することも必要です。同時に、少子高齢化対策や当法人に関連する社会課題について、事業活動の中でどのように受入して解決につなげるかなど、社会問題が施設経営に重大な影響を及ぼす時代への対応も必要です。今後、当法人はこれらのことを踏まえて社会的責任を果たしてまいります。

なお、CSR の担当部署は総務課とします。

※CSR(Corporate Social Responsibility)

当社の CSR の種類		社会的責任(CSR)に関する項目			
(1)	基本的 CSR	(A) 労働管理	(B) 環境対応	(C) 地域貢献	(D) 各種法や規則管理
(2)	リスク CSR	(E) 企業倫理	(F) リスクマネジメント(看護・介護・感染)		(G) 情報開示
(3)	将来戦略的 CSR	(H) 社会課題に対応する事業		(I) CSR リスクを克服	(J) 戦略的社会貢献

### (1)基本的 CSR

(A) 労務管理	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
イ) セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントについての基本方針を全職員へ配布するとともに、ホームページ上でも公開しています。これらの行為は就業規則においても服務規律として明示し、相談窓口を設置しています。	イ) 実施継続中
ロ) 男女の平等な取り扱いを堅持しています。昇進の機会均等、賃金・仕事の内容・発言などの格差がないよう運営しています。	ロ) 実施継続中
ハ) 育児休業規則や介護休業規則により育児・介護をしやすい職場環境の整備を行っています。勤務時間の変更、職種の変更、時短勤務などに考慮し、また子育て支援手当規程に基づき子育て支援の手当を支給しています。	ハ) 実施継続中
ニ) 家庭事情又は希望により、勤務時間のシフト、時短勤務、部署異動などに配慮しています。	ニ) 実施継続中
ホ) 法定雇用率の達成を維持しつつ、高齢者や障害者等の雇用を積極的に推進しています。	ホ) 実施継続中
ヘ) 外国人に対しても平等(採用・賃金・福利厚生・サービスへの配慮・利用者への対応など)に対応しています。	ヘ) 実施継続中

ト) 社会的適応能力を備えた人材の育成に努めていきます。この能力は、よいこと悪いことの分別ができる、他人の意見を聞くことができる、協調性がある、思いやりがあるなどが該当します。 チ) 1時間単位の有給休暇制度を導入しています。	ト) 実施継続中 チ) 実施継続中
--	----------------------

(B) 環境対応	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
イ) 施設の設備等を交換するときには省エネ及び環境対応に配慮しています。 ロ) 敷地内の芝や樹木等の管理を専門業者等に委託し、グリーン地帯の活性維持と隣接周辺地域へ迷惑がかからないよう配慮しています。	イ) 実施継続中 ロ) 実施継続中

(C) 地域貢献	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
イ) 学生等の研修を積極的に受入し、社会の人材育成に寄与しています。 ロ) 災害時には地域高齢者をルールに基づいて受入をしています。 ハ) 地域で火災等が発生した場合には施設の防火水槽の開放をしています。 ニ) 社会的及び構造的な理由を除き、毎年努力して収益を生じさせ税金等を納めています。	イ) 実施継続中 ロ) 現在実績なし ハ) 現在実績なし ニ) 実施継続中

(D) 各種法や規則管理	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
イ) コンプライアンスへの取り組みとして毎月会議等で検討しています。 ロ) 就業規則は法改正や社会状況により随時変更しています。 ハ) 各種規程は必要に応じて日々改善見直しを行っています ニ) 既に策定済みの公益通報者保護に関する規程により内部通報がしやすい仕組みをつくっています。この規程は、職員等からの組織的又は個人的な法令違反行為等に関する相談又は通報の適正な処理の仕組みを定めており、不正行為等の早期発見と是正を図り、もって、コンプライアンス経営の強化に資することを目的にしています。 ホ) 個人情報の保護及び取扱いへの対応は、既に策定済みの個人情報保護規程により対応しています。また、個人情報が漏洩した場合についても、既に策定の対応マニュアルにより対処しています。さらに、個人情報に関する職員の意識を高めるため、採用時には、「すべての情報 (秘密) を他へ漏らすことのない」旨の誓約書を徴取しています。	イ) 実施継続中 ロ) 実施継続中 ハ) 実施継続中 ニ) 実施継続中 ホ) 実施継続中

## (2) リスク CSR

(E) 企業倫理	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
<p>イ) 当法人では既に倫理綱領を定めています。その内容は、「全ての職員は、あらゆる法令を遵守して、有料老人ホームが社会的な責任を有する事業であることを自覚し、入居者がより快適により安全に日々の生活が送れるよう努めなければならない。そして、入居者の人権を侵害し、虐待や身体拘束の行為を営むことがあってはならない。さらに全ての職員は、入居者のサービスの質向上に向けた取組みを怠ることがないよう、自らの資質向上や自己研鑽に努めなければならない」としています。このことを全ての職員に周知徹底させています。</p> <p>ロ) 当法人では尊厳保持を定めています。その内容は、「生活並びに介護サービスを提供していく上において、人権侵害がされないこと(身体拘束や虐待)、人権の基本的自由が保持されること(強制されない)、安心できる加齢の保証があること(老化現象の理解)、平等であること、持続可能な生活の質があること(質向上の取組みおよび改善の保証)、できる限り自己選択ができることです。精神的および肉体的に弱体化している高齢者に対して、前述の行為が担保されることが尊厳の保持となります。また、当施設を利用している高齢者の皆さんは積極的に社会参加をすることができないことから、できる限り社会参加のための外出の機会を設けなくてはなりません。以上のことを理解して日々の業務を一所懸命遂行することが、当施設を利用している高齢者の尊厳保持となります」このことを全ての職員に周知徹底させています。</p>	<p>イ) 実施継続中</p> <p>ロ) 実施継続中</p>
(F) リスクマネジメント(看護・介護・感染)	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
<p>イ) サービス提供に対する危機管理体制の整備を構築しています。既に策定済みのリスクマネジメント及びその指針に基づいて対応しています。リスク管理は今後益々重要になっていくことから、職員への教育に努めています。</p> <p>ロ) バリアフリーを積極的に行い、事故の未然防止を図っています。</p>	<p>イ) 実施継続中</p> <p>ロ) 実施継続中</p>
(G) 情報開示	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
<p>イ) 感染症が発生した場合には、既に策定済みの「感染症発生時の公表指針及び連絡網」の規程により、ホームページ上において積極的に開示をしていきます。このことにより、地域周辺へ感染が拡大しないよう、その防止に努めていきます。</p>	<p>イ) 発生時には速やかに公開していく。</p>

ロ) 苦情・意見などについては、ホームページ上等において積極的に開示をしています。	ロ) 実施継続中
ハ) 介護事故などについては、ホームページ上等において積極的に開示をしています。	ハ) 実施継続中
ニ) 決算内容は、ホームページ上等において積極的に開示をし、透明性を図っています。	ニ) 実施継続中

### (3) 将来戦略的 CSR

(H) 社会課題に対応する事業	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
イ) 社会課題に対応した事業を行った場合、どの程度貢献したかを客観的に評価していきます。(自費によるショートステイ希望者の受入など)	イ) 実施継続中
ロ) 環境に配慮しつつ建物や設備の維持管理を積極的に行い、もってこれらの価値が低下しないよう努めています。	ロ) 実施継続中
ハ) 人間も企業も前を向いて歩けなくなったときが終わりです。どんなに良いサービスを提供しても最初は驚きをもって迎えられる。しばらくするとお客様もそのサービスを当たり前のもので感じるようになります。それを忘れていつまでも同じサービスレベルにとどまっていると、いつのまにかお客様からの支持を失う結果になってしまいます。サービスには「これでいい」はなく、常にお客様のニーズの変化を先取りしながら、新しいサービスを提供していく必要があります。現状維持は後退を意味します。だから、私たちは進化し続ける必要があります。(サービス提供の進化、考え方の進化、働く気持ちの進化など) 進化は将来の戦略的事業活動に役立っていきます。この進化によりサービスの質向上を目指しています。	ハ) 実施継続中

(I) CSR リスクを克服	評価 (平成 31 年 4 月 1 日現在)
イ) 違法性がある又は疑われる企業との取引は行いません。	イ) 実施継続中
ロ) どのような事業展開においてもリスクはあります。このリスクを常にチャンス志向に切り替えていきます。	ロ) リスクに対応するため、常に運営上の見直し検討を行っている。(実施継続中)

(J) 戦略的社会貢献	評価（平成 31 年 4 月 1 日現在）
<p>イ) 企業価値は将来に向かって生み出される事業への期待の総和になっていきます。その為には、サービスの質がマンネリ化にならないよう、常に前向きに利用者の動向や社会の動向を的確に捉え、サービス内容の改善・新たな事業の構築・社会貢献に努めていきます。</p> <p>ロ) ユニバーサルデザイン7原則の、1.誰にでも公平に利用できること、2.多様な使い手や使用環境に対応でき、使う上での自由度が高いこと、3.使い方が簡単ですぐわかること、4.必要な情報が環境や使い手の能力にかかわらず、すぐに理解できること、5.うっかりミスや危険につながりにくく、安全で万一の事故にも対応できること、6.無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること、7.使いやすい大きさや広さを確保することを推進していきます。</p> <p>ハ) ノーマライゼーションの理念である、障害の有無や年齢に関係なく、誰もが互いに尊重しあいながら、地域の中で共に生きる施設や社会を目指していきます。</p> <p>ニ) 社会が要求する多様な働き方を模索していきます。</p> <p>ホ) 施設経営は永遠に繁栄を目指すものでなければなりません。それには、徳に基づく経営を進めるしか方法はないと考えています。徳とは、仁「他を慈(いつく)しむこと」・義「道理に適(かな)うこと」・礼「礼節を弁(わかま)える」の3つです。長期間の戦略的社会貢献には、「力」による企業統治ではなく、「徳」による企業統治でしか成り立たないと考えます。当法人はこの「徳」ということの大切さを理解し、同時に職員への「徳」の教育を熱心に行い、もって誠実に発展を続けていきます。</p>	<p>イ) 実施継続中</p> <p>ロ) 実施継続中</p> <p>ハ) 実施継続中</p> <p>ニ) 子育て支援継続</p> <p>ホ) 実施継続中</p>